

会派名	自民清風会
代表者名	小木曾智洋

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 旅 行 報 告 書

令和5年3月9日提出

活動年月日	令和5年2月7日～8日	
氏名	原田範次 蜂須賀喜久好	
用務先 及び 内 容	1 2月8日	用務先 山形県山形市
		内 容 中山間地域の整備について（株式会社カルイ）
	2	用務先
		内 容
備 考		



行政視察報告書

報告者 蜂須賀喜久好

視察地	令和5年2月7日～8日	山形県山形市 (株)カルイ
視察内容	中山間地域整備について	
視察者	原田範次 蜂須賀喜久好	

【株カルイ概要】

大正5年(1916年)創業 日本で初めてチップーシュレッダー、樹木粉碎機を作った樹木粉碎機のパイオニアで、農業用ポンプと樹木粉碎機を製造販売した

歴史と実績のある会社。昭和14年、愛媛県から山形県企業誘致の第1号として来県し、現在は樹木粉碎機を主力に作っている。樹木粉碎機はカルイが日本で初めて作ったもので、製造や加工、組み立て、塗装までを一貫して行って



おり、山林の間伐チップ、果樹園の剪定枝チップ、竹林整備、畜産業や造園業に使用。カルイでは粉碎機の性能、作業時の安全性などを徐々に改良し、ユーザー

の声に耳を傾け、現在の製品を作り上げてきた。

7年前にはチップを搬送しやすくするため、除雪機などについているブロー部分を、粉砕機としては初めて取り付けた。

粉砕したチップは主に田畑の肥料として使われるが、ゴミの減量と土壌改良にも一翼を担っている。中小企業であるが、樹木粉砕機は日本一の企業である。



【調査内容】

本市は市域の60%を森林に要し森林、竹林の整備が地元住民の努力では限界になり、里山地域までが荒廃してきている事を受け、令和3年度、中山間地政策課を新設対応し強化を図るとしている。

現在の状況はイノシシ、鹿、サルが増加し益々居住環境に大きな影響を与えている。また、果樹園も多く、剪定枝処理に苦慮している。中央、八帖のクリーンセンターのゴミの20%が剪定枝、草、木であるので、CO2削減にも大きく繋がる。

使用時におけるマシンの、能力、耐久性、適応性の実態の調査を行った。

【本市への提言】

本市は市域の60%が森林である。現在は粉碎機を所有しておらず、JA、機械メーカーにリース料を支払って使用している。現状は使用料金がかかることで使用が少ない。中山間地の問題解決には本市において支所単位で1台保有管理し、年間を通して使用出来る体制を整える事により、中山間地の荒廃を防ぎ、鳥獣害の被害削減にも繋がる。また、地域の農業草、都市部地域から搬出される剪定枝等のごみの削減により、CO2削減にもつなげることが出来る。粉碎機的能力は機種にもよるが、通常型ドラゴン13HPは毎時最大4・8m³の木材、竹のチップ化が可能。機械の選定は地域の実情に合った機械の選考も必要である。

(同行者の所感)

今回視察の破砕機は小型で移動も可能な機械であった。

岡崎市には、多くの寺院・神社・個人宅の庭・河川堤防の竹・里山の雑木竹林、などから出るゴミは岡崎市ごみ焼却炉に運びこまれている。

ゴミを破砕することで、木材・竹のチップは、庭の除草・乾燥防止に利用できる。

また、竹のチップは殺菌効果・防虫効果もあると聞き、その活用は広がる。

破砕機を活用する事業を検討実行する効果は十分あると考える。